

# 今月のテーマ 山田方谷



# 田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

方谷は貧しい家に育ち、若い時に父母を亡くすという不幸を乗り越えながら、学問への志を持ち続け、藩校である「有終館」の学頭・校長になりました。その後、藩主の板倉勝静に請われて藩の財政を受け持つようになり、それを成功させると、やがて藩全体の舵取りを務めるようになり、一貧乏板倉と呼ばれた藩は見事に立ち直り、安定していきまし



小倉魚天筆 山田方谷像 高梁方谷会蔵/高梁市歴史美術館寄託

「尊敬する歴史上の人物は？」と聞かれることがたまにあります。そんなとき、私はよく山田方谷の名を挙げます。山田方谷は、その偉大さほどには知られていませんが、今から二百年ほど前に今の岡山県高梁市(備中松山藩)に生まれ、幕末の難しい時代に藩政を見事に立て直した人です。

藩主の板倉勝静は徳川幕府の老中ですから、戊辰の役とき松山藩は幕府側、つまり賊軍でした。そのため官軍は松山藩を攻めようとしています。方谷の指示のもと、松山藩は戦火にまみれることもなく、明治への移行を迎えることができました。

その後、方谷は、新政府からの仕事の誘いを断り、学問の道に戻り、多くの若者達を育て、一生を終えました。

方谷が江戸で学んでいるころ、同じ塾に佐久間象山がいました。2人は夜中まで議論をしていたそう、塾生が「うるさくて仕方ない」と訴えると、あの二人の議論は面白いぞ、と師の佐藤一斎は止めることもなかったそうです。

方谷と象山は、塾の中では「竜虎」と呼ばれ一目置かれたライバル同士だったようですが、塾頭を務めたのは方谷でした。人をまとめる力や人間的な魅力では、6歳年上の方谷に分があったのだろうと思います。

もし方谷が今、生きていたら、あるいは江戸時代にタイムスリップできるなら、ぜひ会ってみたいと思います。同じ空気を吸いながら、人物全体に接し、いろいろな話を聞いてみたい、話してみたいと思います。

長崎には多くの歴史上の人物が訪れました。残念ながら山田方谷は来ていませんが、大河ドラマ「花燃ゆ」の登場人物も、多くがこのまちを舞台に活躍しました。長崎にいると、そういう人物たちと少しだけ近くなれる気がします。どんな気持ちで長崎での時間を過ごしたのだろうか、と想像力が動き出します。

長崎は出会いのまち。人、文化、学術、産業、宗教…いろいろなものがこのまちで出会い、新しい発展を見せていきました。世界遺産候補の産業革命遺産や教会群も、まさに西洋と東洋の出会いが生み出した世界でも稀有な物語です。

そして、それは決して過去の話ではありません。未来の長崎も世界との出会いの舞台でありたいものです。

スリッパでできるなら、ぜひ会ってみたいと思います。同じ空気を吸いながら、人物全体に接し、いろいろな話を聞いてみたい、話してみたいと思います。



桜と海が一望できる

道歩いていると近所の方々が地元ならではの情報を親切に教えてくださいました。小ヶ倉はとってもよか所やけん、ぜひ来てみてください！

八幡神社から2、3分歩くと中国風のカラフルな彫刻のある地蔵堂につきます。このお地蔵様は鯨が大好きなようです。小ヶ倉の人は昔、鯨を取っていたことから1月19日にお地蔵様に鯨の切り身をお供えし、祭りを開催します。

市広報広聴課の職場体験で小ヶ倉地区を取材した、小ヶ倉中学校2年の野龍之介です。取材がんばりました！  
小ヶ倉小学校の裏に八幡神社があります。入り口の階段を上るとかわいらしい鳥居と祠があります。ここは桜の名所で知られていて、高台からの港の景色は船が見られてオススメです。

## ながさき フチ 旅行

景色もいい、人もいい  
小ヶ倉めぐり